

平成 22 年 6 月 14 日現在

機関番号：22702

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19592581

研究課題名（和文）地域における独居高齢者の貧困が健康に及ぼす影響と地域看護支援のあり方に関する研究

研究課題名（英文）Influence of the poverty on the health of the elderly living alone

研究代表者

別所 遊子（Bessho Yuko）

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：20190176

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は地域に暮らす独居高齢者の健康と経済状態の関係を明らかにし、支援の方策を検討することである。経済的な問題を抱えながら地域に暮らす高齢者を支援する専門職である介護支援専門員や、地域の独居高齢者を把握し、相談を受けている民生委員を対象に質問紙調査および面接調査を行った。

その結果、介護支援専門員の 47%は、経済的な理由から必要な介護保険サービスを手控えられた経験があり、また、手控えを経験していた介護支援専門員の約半数は、サービスを控えたことにより利用者の健康状態の悪化や家族の介護負担の増加を惹き起こした経験を持っていた。これらに対する介護支援専門員の対応としては「通常業務を超える活動」「地域ネットワークの活用」などがあった。

民生委員を対象とした調査では、民生委員の 49.4%は担当地区に経済的問題をもつひとり暮らし高齢者があり、84.0%は担当地区に健康に問題があるひとり暮らし高齢者がいると回答していた。また、「健康上の問題は、経済的な理由から起きている」と考える民生委員は 17.3%であった。これらへの対応としては「ときどき様子を見に行った」が最も多く、民生委員の 3割は保健福祉の関係者への相談は難しいと感じていた。

介護支援専門員・民生委員は個々に経済的問題を抱えながら地域に暮らす高齢者の対応を工夫していたが、地域ネットワークの強化や支援制度の検討なども求められることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：Aims: The aim is to clarify how the poverty influences on the health of the elderly living alone and the way to support them in the community. Methods: Interviews and questionnaires on the care managers and the welfare commissioners in the community.

Results: Forty-seven% of the care manager experienced the user's refrain from Long Term Care Insurance services for the economic reasons. Half of them thought that the deterioration of user's health condition or an increase in the caring load of the family care-givers was caused by the refrain from the services. The care managers coped by "working exceeding time over the routine work" or "use of the community network".

Forty-nine % of the welfare commissioners answered that there were elderly residents who had economic problems, and 84.0% answered that there were single-living elderly residents who had the health problems in their charged district. 17.3% thought, the problem on health has occurred from the economic reasons. They coped on these problems by "sometimes visiting to see them". Thirty percent of the welfare commissioner felt some difficulties in consulting to the profession of health and welfare.

Discussion: Though the care managers and the welfare commissioners were coping with the health problems caused by economic problems of elderly residents living alone in the community, need of the strengthening of the community support network and the refinement of the institutional support system was suggested.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野： 医歯薬学

科研費の分科・細目： 看護学・地域老年看護学

キーワード： 高齢者 貧困 健康

1. 研究開始当初の背景

近年増加を続けている独居高齢者への支援策を検討するなかでは、経済的問題と、それが健康に及ぼす影響は無視できない状況にある。経済的不況とその長期化、および保健医療財政の逼迫の中で、独居高齢者等の経済的困窮の問題が顕在化し、とくにそれが健康に与える影響が公衆衛生学の分野などで関心を集め始めている。しかし、高齢者の健康と経済状態の関係を明らかにした研究は、保健医療の分野では極めて数が少ない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域において相対的に貧困な状態にある独居高齢者の健康の状態と健康にかかわるニーズ、健康状態に影響を及ぼす要因、医療保健福祉サービスの利用状態、ソーシャルサポートの受領状態を明らかにし、貧困な状態にある独居高齢者の健康レベルを維持し、生活機能の低下を予防する方策について検討することである。

3. 研究の方法

(1)2007年度は、経済的な問題を抱えている独居高齢者に関わる専門職、ならびに地域の独居高齢者を把握し、相談を受けている民生委員を対象にグループインタビューを実施した。

(2)2008年度は、経済的理由による高齢者の介護保険サービス利用の手控えに焦点をあて、手控えが利用者や家族へ与える影響と、それへの対応の現状を明らかにすることを目的に、介護支援専門員を対象とした質問紙調査を行った。

(3)2009年度は、介護支援専門員を対象として、担当する利用者の経済的理由による介護保険サービス手控えについて、その理由や

影響、介護支援専門員の対応を事例を通して明らかにすることを目的とし、面接調査を行った。また、ひとり暮らし高齢者が抱える経済的問題と健康問題の現状について、民生委員を対象とした質問紙調査を行った。

4. 研究成果

(1)2007年度の成果として、専門職へのインタビューから、近年、高齢者においては、健康問題、経済問題、介護問題、人間関係などの問題が相互に絡み合い生活全体に影響していること、「経済的困窮」のなかにも多様な要素が含まれていることなどが語られ、それらを包括的に考える必要があることが示された。

また、民生委員へのインタビューでは、生活保護の給付等により、貧困が直接的に健康障害を顕在化させる状況は多くないものの、少額の年金を計画的に支出する能力が不足しているために、一定期間ごとに生活必需品を購入することが困難な状況に陥ったり、家計を援助している親族の死亡により直ちに生活費に困窮をきたしたり、遠方への転居を余儀なくされるなど、経済問題に起因する健康を含めた生活全般の基盤が脆いことが示唆された。

高齢期においては、収入のみならず家計の自己管理能力を保持することが重要であるとともに、高齢期に至るまでに積み重ねてきた近隣の人との関係性が経済的に困窮状態にある場合にも、近隣からのサポートに影響していることも明らかになった。また、新たに地域に転入してきた見守りが必要な独居高齢者を、民生委員が把握しにくい状況になっている現状も指摘された。

(2)2008年度の成果としては、介護支援専門員の47%は、経済的な理由から必要な介護保険サービスを手控えられた経験があったことが明らかになった。また、手控えは、「同

居の家族からの申し出」によるものが最も多く、手控えには家族の意向が影響していることが推察された。経済的問題の具体的な内容としては「年金などの収入が少ない」が最多であった。手控えを経験していた介護支援専門員の約半数は、サービスを控えたことにより利用者の健康状態の悪化や家族の介護負担の増加を惹き起こした経験を持っていた。これらの問題の解決に向けて、介護支援専門員は「家族の協力を求めた」、「介護保険サービスの使い方を工夫した」などの対応をしており、手控えの影響を最小限にするための工夫をしていることが示された。

(3)2009年度の成果としては、介護支援専門員を対象とした調査の結果、サービスを手控えた経済的な理由には「生活保護は適用されない程度の低所得」、「親族の事情」などがあり、手控えによる影響として、「不十分な服薬管理」「本人の身体的負担の増加」、「介護者の自殺企図」「介護者の入院」などが挙げられた。介護支援専門員の対応としては「通常業務を超える活動」「地域ネットワークの活用」などがあつた。

民生委員を対象とした調査では、民生委員の49.4%は担当地区に経済的問題をもつひとり暮らし高齢者があり、84.0%は担当地区に健康に問題があるひとり暮らし高齢者がいると回答している。把握した健康問題は「足腰が弱っている」、「持病が悪化している」の順に多く、「健康上の問題は、経済的な理由から起きている」と考える民生委員は17.3%であった。これらへの対応としては「ときどき様子を見に行つた」が最も多く(89.5%)、「保健福祉の関係者に相談した」は48.6%であった。保健福祉の関係者に相談するにあたり、「難しい」と感じた民生委員の割合は30.1%であった。

介護支援専門員・民生委員は個々に経済的問題を抱えながら地域に暮らす高齢者の対応を工夫していたが、地域ネットワークの強化や支援制度の検討なども求められることが示唆された。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計2件)

①片平伸子, 本田亜起子, 吉田法子, 太田貞司, 別所遊子. 高齢者の経済的理由による介護保険サービス利用の手控えとその影響-介護支援専門員からみた現状に焦点を当てて-. 第12回日本地域看護学会学術集会, 2009. 8. 8. 千葉.

②本田亜起子, 片平伸子, 太田貞司, 別所遊子.

経済的理由による介護保険サービス利用の手控えに関する健康問題と介護支援専門員の対応. 第68回日本公衆衛生学会総会, 2009. 10. 22. 奈良.

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

別所 遊子 (Bessho Yuko)  
神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・教授  
研究者番号: 20190176

### (2)研究分担者

太田 貞司 (Ota Teiji)  
神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・教授  
研究者番号: 90223833

本田 亜起子 (Honda Akiko)  
神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・助教  
研究者番号: 90420695

片平 伸子 (Katahira Nobuko)  
神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・助教  
研究者番号: 10381675